

(様式 4-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書

1. 整備計画													
計画の名称	⑤ 安全で快適な暮らしを支えるまちづくり												
計画の期間	平成26年度 ~ 平成30年度				交付対象	静岡県、磐田市							
計画の目標	県道等の主要幹線道路へのアクセス道路整備及び鉄道駅の道路整備を推進することにより、安全かつ円滑な交通の促進、地域交流の活性化と利便性の高いまちづくりを目指す。												
計画の成果目標 (定量的指標)	拠点間の所要時間の短縮 鉄道駅周辺整備による事故件数の減少												
定量的指標の定義及び算定式									定量的指標の現況値及び目標値			備考	
									当初現況値 (H26当初)	中間目標値 (H 末)	最終目標値 (H30末)		
① 拠点間の所要時間の短縮	各路線の拠点間の所要時間の合計								37 分	-	24 分		
② 鉄道駅周辺整備による事故件数の減少	駅前広場の交通事故件数								4 件	-	0 件		
③													
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,689 百万円	A	1,253 百万円	B	0 百万円	C	436 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	26%			
事業種別	主な交付対象事業	要素となる事業名 (事業箇所)			事業内容 (延長・面積等)			市町名	全体事業費 (百万円)	備考			
道路、街路		新貝地区(都)三ヶ野鎌田線 外4路線			区画整理 A=40.4ha			磐田市	524				
事業数		鎌田第一地区(都)三ヶ野鎌田線 外1路線			区画整理 A=25.2ha			磐田市	1,757				
16		(1) 磐田山梨線			バイパス 0.53km			磐田市	1,260				
2. 事業の進捗状況 (○:計画期間中に完成 △:計画期間終了後に完成見込 -:その他(備考欄に具体的に記入(中止、未実施等)) (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●:本計画の期間中に完成 ▲:本計画の期間終了後に完成見込)													
計画の移行なし	○	6	△	7	-	0	備考		計画の移行あり	●	1	▲	2
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況													
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況													
<ul style="list-style-type: none"> 要素事業である新貝地区(都)三ヶ野鎌田線 外4路線)においては、東海道本線袋井・磐田間新駅の設置に向け、アクセス道路となる(都)三ヶ野新貝2号線等の整備を図り、拠点となる新駅(御厨駅)の開業(R2.3.14)に寄与した。 要素事業である鎌田第一地区(都)三ヶ野鎌田線 外1路線)においては、東海道本線袋井・磐田間新駅の設置に向け、アクセス道路となる(都)新駅南口線の整備を図り、拠点となる新駅(御厨駅)の開業(R2.3.14)に寄与した。 													
II 定量的指標の達成状況	指標① (拠点間の所要時間の短縮)	最終目標値	24 分		目標値と実績値に差が出た要因	要素事業の多くで計画通りの事業費を確保できず、整備が進まなかったため、平成31年度以降も継続して事業を行っている。 部分整備や暫定整備が進んだことから、計画の当初現況値(H26当初)よりは交通利便性が高まり、所要時間は短縮されている。 事業の効果により事故物件は減少しているが、整備後の施設に不慣れなドライバーもおり、物損事故が発生した。							
		最終実績値	30 分										
	指標② (鉄道駅周辺整備による事故件数の減少)	最終目標値	0 件										
		最終実績値	1 件										
	指標③ ()	最終目標値											
		最終実績値											
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況													
令和2年3月14日の東海道本線御厨駅の開業に寄与するとともに、御厨駅周辺における計画的な整備が図られている。磐田市東部における都市拠点の整備が進み、御厨駅を中心としたコンパクトなまちづくりが展開されている。駅前広場に多目的スペースを整備したことにより、コンサート等のイベントや軽トラやキッチンカー等を利用した物販が定期的開催され、賑わいと交流が生じている。													
4. 今後の方針等													
要素事業である新貝地区(都)三ヶ野鎌田線 外4路線)及び鎌田第一地区(都)三ヶ野鎌田線 外1路線)は、平成31年度より都市再生整備計画事業(磐田新駅周辺地区)と同じ社会資本総合整備計画に位置付けることにより、磐田新駅(御厨駅)を中心に都市機能の誘導を図り、地域交流の活性化と利便性の高いまちづくりを更に促進する。													

(1) 事業の目的

【景観まちづくり課】

磐田市内の土地区画整理事業区域内では、JR御厨駅が令和2年3月に開業することに合わせ、新駅へのアクセス道路及び駅前広場等の整備を進め、駅アクセスの向上を図り、かつ地域交流の活性化と利便性の高いまちづくりを目指している。

(2) 指標：拠点間の所要時間の短縮

各路線の拠点間の所要時間の合計の減少を目標とした。

指標の達成状況

平成30年度末の最終実績値は30分であり、目標（24分）までの短縮には至らなかったが、暫定供用・部分供用等により、所要時間は確実に短縮されている。

計画の成果目標	定量的指標			
	H26当初	H30末最終目標	H30末最終実績	H30末達成率
拠点間の所要時間の短縮(分)	37分	24分	30分	53.8%

(3) 指標に関連する実施事例 A7（都）磐田新駅南口線（磐田市鎌田）（道路新設）



新駅開業に合わせ、駅アクセス道路である都市計画道路を新設

(4) 定量指標以外の効果発現状況

駅前広場に多目的スペースを整備したことにより、コンサート等のイベントや、キッチンカーを利用した物販が開催され、賑わいと交流が生まれている。



(5) 今後の方針と目標達成見込み

引き続き、区域内の都市計画道路整備を進め、新駅を中心とした都市機能の誘導を図り、地域交流の活性化と利便性の高いまちづくりを促進する。